

### ③ 高校3年生発表

#### (リアル田舎に泊まろう！～高知のいいところをつめこんだ旅プラン)

生徒： 私たちは「リアル田舎に泊まろう！」という、高知県の良いところを詰め込んだ旅プランを、高知の産業を元気にするアクションプランとして考えました。

高知県の良いところの一つは田舎ならではの人の温かさです。地元の人ホスピタリティを感じたという全国のアンケート調査で第4位に挙げられるほど、おもてなしの心を持っています。二つ目は、豊かな自然です。高知県にはカツオに代表される、おいしい農産・水産物がたくさんあり、食べ物だけでなく、サーフィンやダイビングなど、自然レジャーとしての活用も可能です。三つ目は、世界に誇れる歴史です。高知県は坂本龍馬や岩崎弥太郎など、今日でも多くの人から尊敬される偉人をたくさん輩出しています。これらの良いところを利用したアイデアがホームステイ式民泊です。自然活動、農業・漁業体験など、高知をアピールできる民泊が中心となって観光客を受け入れ、観光客に高知の良いところをたくさん知ってもらおうというものです。

これは県と県民が協力することが必要となります。まず、県が観光客を泊めても良いという民泊先を募集し、応募者の家の環境などについて現地見学をして調査します。そして良さそうな家を民泊先として登録し、パンフレットを作成します。次に、観光スポットを載せたパンフレットを作成します。このパンフレットは観光客が行きたいスポットを選択するのに使い、桂浜や足摺岬などのA級スポットだけでなく、あまり知られていないB級スポットも盛り込むことで、観光客は新鮮さを味わえ、観光が県全体に広がるのが狙えます。あとは観光客に泊まりたい家、行きたい場所をパンフレットから選択してもらいネットや電話で申し込んでもらいます。

このプランは、観光客と高知県の両方にメリットがあります。高知県のメリットはリピーターの獲得です。人とのつながりを大切に、新たな観光スポットを提供することで、「高知にまた来たい」と、より一層感じてもらえるようになります。農業・漁業体験も地域の活性化に役立ちます。観光客を受け入れることで人々の生活にも活気が生まれ、更に地域の現状を知ってもらえることで一次産業のボランティアの呼び寄せも可能になり、観光客が帰った後、高知県での体験を周囲の人に話してもらうことが宣伝にもなります。観光客のメリットは次の三つです。一つは、宿泊費がかからず、最低限の食費と体験費用しかかからないので観光客の金銭的負担を減らせます。二つ目は、高知県が観光客にとっての第2のふるさとなることです。都会に暮らす観光客は民泊先の人たちと関わりを持つことで、都会とは違った、人の温かさがある高知県を特別な場所と感じられるよ

#### 高知のいいところを生かそう！



1. あったかい人柄
2. 豊かな自然
3. 全国に誇れる歴史

うになります。三つ目は、地元の人にしか知られていないB級スポットの情報が得られ、他の人とは違った方面から高知県を楽しむことができるようになります。

実際に旅プランの例を紹介します。1日目の午前中は、四万十川でカヌー体験と鮎釣り体験をして、昼食には午前中に釣ったとれたての鮎など、地元の食材を使ってバーベキューを行います。午後は大方に移動して、ホエールウォッチングをします。そして、夕食には土佐名物の皿鉢料理を食べます。2日目は、大月に移動してダイビングを行います。大月の海は沖縄にも負けないほど美しく、近年では修学旅行生の受け入れなどもしています。お昼ご飯は地元では有名な店の「ところてん」です。ここは隠れたグルメスポットになっています。午後はコスモス祭りに行きます。その後はカツオの薫焼き体験をして、そのカツオのたたきを夕食で食べます。夕食後は星の観察をします。大月の空は非常に澄んでいて、星が降ってくるかのように見えます。

最後に、高知県の理想の未来の話をしていきます。このプランを実行することで、県民参加の観光産業が発展します。観光が県全域に広がることで、高知県中心部だけでなく、地方も活性化し、その結果、高知県内の就職口が増え、若者の県外流出も防げます。また、高知県の良さが全国にPRできることで、高知県の魅力に気づいた都会の人々のIターンが増えて人口が増加することも期待できます。これによって、観光産業で県全体が発展するのです。

知事： 3年生の皆さん、いわゆる滞在型・体験型観光を進めていくことは、私も大いに賛成です。これぞ、高知県の観光地の目指すべきところじゃないかと思っています。滞在型・体験型観光の対極に位置するのがレジャー型観光で、ディズニーランドみたいな大規模な施設を造って観光客を誘致しようというやり方もあります。高知県ではレジャーランドで観光客を引っ張ってくるより、せつかくある自然や、田舎の素晴らしさを味わってもらい体験してもらうことを観光としてやっていく方がいいんじゃないかと思っています。

自然があるのにあえてレジャー施設を造るのか、それとも、自然を自然のままに味わってもらうのか、いろんな考え方があろうかと思いますが、今、県が一生懸命進めようとしているのは滞在型・体験型観光の推進です。

特にすごいと思ったのは、高知県のメリットの中で、リピーターをつくることできると書いているところです。実際にこういう形で民泊をして、田舎に入ってもらい、いろんな体験をしてもらうことでリピーターづくりにつながると思います。観光客のメリットに、B級スポット情報が得られると書いています。B級かどうかは別として、例えば大月町の柏島周辺の海に棲息している魚の数が2,000種類で全国ナンバー1というのは、高知の人にもなかなか知られていない。高知県にはそういう見どころが結構あるけど、地方の情報は、全国の人に知られ

ていません。

高知県も高知市だけじゃなく、それぞれの地方のすごいところをPRしていくことが、観光客を増やしていくために必要なことだと思います。「土佐・龍馬であい博」のホームページがオープンし、新しいパンフレットもできていますが、高知駅前にメイン会場ができ、地方でもサテライト会場ができるので、会場を出発点としてクルッと回ってもらい地域の名物を食べてもらって、体験してもらう形で、ツアーを組もうとしてるところです。

この1日目・2日目のコースはなかなか面白いと思います。ポイントは四万十・大方・大月とあちこち回ることですね。いろんな地域を見てもらえるし、お金も落ちて、地域の活性化につながっていく。これだけ長時間かけて楽しめるのであれば、東京や北海道のような遠いところからもお客さんが来てくれるでしょう。本当に知恵が詰まっていると思いますし、私も勉強になりました。